表２：（参考）黒毛和種の一価不飽和脂肪酸（ＭＵＦＡ）等の割合
＜全国和牛能力共進会（肉牛の部）＞

	ＭＵＦＡ	
	%	
第10回(平成24年)	57.6	＊
第11回(平成29年)	54.4	
第12回(令和４年)	56.4	

＊　24か月齢未満の去勢牛が対象

＜枝肉測定結果＞

	ＭＵＦＡ	
		オレイン酸
	%	%
令和５年	60.6	54.8

※１：黒毛和種の筋間脂肪のＭＵＦＡ等の割合を光学測定し集計した値。
※２：枝肉測定結果は、枝肉の生産者・出荷者等から依頼を受けて、(公社)日本食肉格付協会が測定を行った13,150頭(去勢7,098頭、雌6,052頭)についての平均値。

② 繁殖性

繁殖形質に関するデータ収集等を推進するとともに、これまでに収集されたデータによる遺伝的能力評価に基づき、繁殖能力に優れ、生涯生産性の高い種畜の選抜に取り組むことにより、分娩間隔の短縮や性成熟を踏まえた初産月齢の適正化等を推進するものとする。

表３：繁殖能力に関する目標数値（全国平均）

	初産月齢	分娩間隔（日数）
	か月	か月
現在	25.3	13.3（406日）
目標（令和17年度）	25.3	12.5（380日）

③ 飼料利用性

生産コストの低減を一層推進する観点から、直接検定における余剰飼料摂取量(注5)と肥育牛における飼料利用性との関連性等も含め、飼料利用性に関する指標化の検討を引き続き進めるとともに、これまで蓄積されたデータを基に遺伝的能力評価に着手し、種畜の選抜手法の実用化を進めるものとする。

注５：余剰飼料摂取量
牛が摂取した飼料の量と、維持・増体に用いられた理論上の飼料の量との差で表され、増体量を維持しつつ飼料の摂取量を低減させることが可能な指標である。

（２）体型に関する改良目標

家畜登録機関が定める発育標準に応じた発育の斉一性を高める。繁殖雌牛にあっては、品種や系統の特性に応じ、適度な体積がある体型とし、肥育素牛にあっては、十分な肉量が確保できるよう、体の幅や長さ、深さのある体型とする。

表４：（参考）繁殖雌牛の体型に関する目標数値（成熟時）

	品種	体高	胸囲	かん幅	体重
		cm	cm	cm	kg
現在	黒毛和種	131	189	48	495
	褐毛和種	135	192	50	583
	日本短角種	133	199	50	580
目標（令和17年度）	黒毛和種	130	190	48	520
	褐毛和種	134	200	50	600
	日本短角種	133	203	51	600

※１：現在値は、家畜登録機関による推計値。
※２：高知系の褐毛和種及び無角和種においては黒毛和種に準ずる。

（３）能力向上に資する取組

① 改良手法

ア　多様な改良ニーズに対応しつつ、遺伝的能力評価に基づいた肉用牛の全国的な改良を推進するため、関係機関が一層連携して、従前からの血統情報、産子の枝肉情報などの産肉能力に係るデータに加え、枝肉６形